

清平調詞(その一)

李

白

雲には衣裳も想
花には容も想

春風檻も松
露華濃

若し群玉山頭に見るに非ずんば

会ず瑤台下に向つて逢

【作者】李白(七〇一〜七〇二年)中国、盛唐の詩人。字、太白。号、青蓮居士。若い頃は任侠を好み、四川を振出しに、江南、山東、山西を遊歴。四十二歳のとき長安に出て賀知章らに推挙されて翰林供奉(くぶ)となつたが、高力士に憎まれてまもなく追われ、また放浪生活に入り、その間、杜甫とともに旅をしたこともあ
る。のち安祿山の乱のとき永王の軍に加わつたため夜郎(貴州省)に流されることになり、途中で大赦にあい、また各地を往来するうちに安徽省で死んだ。杜甫
とともに中国最高の詩人として「李杜」と並称され、杜甫が「詩聖」と呼ばれるのに対して「詩仙」と呼ばれる。絶句と楽府(がふ)を最も得意とし、自由奔放で
豪快な盛唐の詩風を代表する。詩文集「李太白集」がある。

【語釈】*容:容貌。 *檻:宮中の手すり。 *露華:美しい露。

【通釈】雲を見ると楊貴妃の衣裳が目に見え、花を見ると楊貴妃のあでやかな姿が目に見え、春風が沈香亭の欄干の手すりを払い、牡丹の花に降る美しい露が、見事に輝いている。こんな美しい人には仙女のもともじめである西王母のすむ
郡玉山の山頂でなければ仙人のすむ瑤台の月明かりの下でしか、めぐり会えないだろう。

【備考】仕事は主に皇帝の行幸に付き添い、記念的な詩を詠む宮廷詩人のようなものでした。この時期の李白の作品として、楊貴妃の美しさを牡丹の花にたとえた「清
平調詞」三首が今に伝わっています。